

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

資料 1

基本事項	事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの							
	会期	平成30年10月5日(金)～平成31年1月14日(月)			開館日数	82 日間			
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 地下ギャラリー			実施方式	01自主企画・単独方式			
	観覧料	一般	600 円		出品点数	141 点			
		割引	400 円						
	担当者	学芸:若山 満大(忠あゆみ) 事務:堺 大輔							
	目的	広瀬川畔への《太陽の鐘》の移設に伴い、岡本太郎を紹介することで中心市街地地域全体の活性化につながるとともに、新しい切り口で太郎を紹介することにより全国の岡本太郎ファンにアーツ前橋の活動を周知する。							
	キーワード	岡本太郎 創造的であること 生活と芸術 戦後日本 戦後美術 メディア							
	他団体との連携 (共催、協力等)	協力:岡本太郎記念館、川崎市岡本太郎美術館							
		協賛:太陽の会							
参加・出展作家	岡本 太郎	関口光太郎	赤瀬川原平	横尾忠則					
	ヤノベケンジ	パブロピカソ							
関連イベント	10/7 シンポジウム 山下裕二、ANI、タナカカツキ、春原史寛								
	11/11 記念講演会「岡本太郎と読む今日の芸術」								
	10/21, 11/17、12/15 学芸員によるギャラリーツアー								
	12/2 前橋に太陽の鐘が鳴る								
	12/9ロビーライブvol18								
	12/3-9おしゃべりアートデイズ								
	12/1、12/9映画館で太郎と出会う 12/1(2回)誘惑 12/8(1回)宇宙人東京に現わる								
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	出品目録	図録		
		1,500 部	80,000部 シンポジウム 30,000部		4,000 部	4,000 部			
	収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)／(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳			
						観覧料	助成金	他	
		予算	21,382,000 円	21,382,000 円	100.0%	2,640 円	500,000 円	3,000,000 円	17,882,000 円
		決算見込	23,219,600 円	21,896,342 円	106.0%	958 円	2,337,600 円	3,000,000 円	17,882,000 円
		差額	1,837,600 円	514,342 円	6.0%	-	1,837,600 円		
	予算／決算	108.6%	102.4%	106.0%	36.3%	467.5%			
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	『今日の芸術』から読み取れる岡本の思想を検証するとともに、活動の軌跡をさまざまな作品や資料によって紹介する。						
		・広報戦略 ・新たな試み (転記)	1.岡本太郎研究者・春原史寛氏を監修者に迎えて展示を構成。 2. 関係各所と連携し、《太陽の鐘》移設について紹介。 3.文化人を迎え岡本太郎を知るシンポジウムを実施						
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・前橋駅前広場横断幕設置(シンポ:9/27-10/7、展覧会:9/27-12/27) ・バスマスク(マイバス8台・10/4-1/14)						
		新たな試みの実績	・10/5～10/30まで入館料無料 ・支所、市民サービスセンター管内居住者(市内周辺部)に向け、無料バスを運行(回覧11000枚で募集) 78名(4日間、6便、15地区対象) ・マイバス利用者に観覧券半券提示で当日1回限り運賃無料						

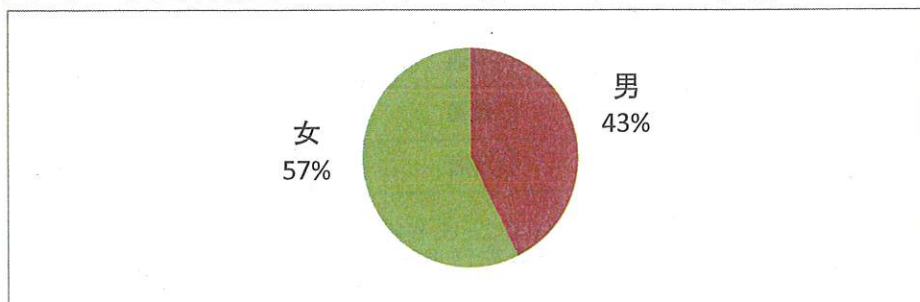
平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの												
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)	
		11,324	171	3,688	35	2,391	167	740	198	523	4,149	#####	279	
	有料観覧者率 69.8%	50%	1%	16%	0%	10%	1%	3%	1%	2%	18%			
	一般指標	指標	目標値		達成値		達成率		特記事項					
		入場・参加者数	8,100 人		22,863 人		282.3 %		シンポジウム418人(展覧会と別)					
展覧会満足度		80 %		%		-80.0 pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)						
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった												
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	近隣住民、全国の岡本太郎ファン全般											
		成果	概ねねらい通りの成果を得た。 ・初来館の近隣住民が多く、首都圏を中心に県外からの来館者も多くみられた ・年齢層別に見ると、来館者は40代が最も多く、次いで50代・60代が多かった											
		ねらい1 (転記)	岡本太郎ファンを中心とした新たな観客の獲得											
		成果	ねらい通りの成果を得た。 ・来館者の61%がアーツ前橋に初めて利用している ・市内・県内在住の来館者が全体の81%であることを考えると、近郊在住者のなかに新たな観客を獲得できた可能性が高い											
		ねらい2 (転記)	2. 官民学が行っている地域活性化へ向けた活動を広く周知する。											
		成果	概ねねらい通りの成果を得た。 ・本展プロローグとして、広瀬川湖畔に昨年度設置された「太陽の鐘」の紹介セクションを設けた ・地元企業家有志による「太陽の会」を中心とした地域づくりの取り組みを周知することができた ・会期中に太陽の鐘をつくイベントを開催することで100名以上の参加者を集め、地元紙にも取り上げられた。											
		ねらい3 (転記)	3収蔵作品への新たな視点の獲得											
	成果	本展の骨子『今日の芸術』の背景には、戦後における生活・文化の再構築という社会課題がある。 ・戦後前橋においても近藤嘉男らによる民間美術教育、中央画壇・書壇の支部組織開設は同様の意識を共有している可能性が高い ・職場や土着的コミュニティによる創造行為が、当地の前衛NOMOグループの母胎となったことも併せて考慮すれば「戦後復興期の前橋」という全体性のなかで、収蔵作品を包括的に捉え返すことも可能であると思われる												
⑤ 波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正 (記入日を()内に記載)	<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 1. 参加作家のその後の活動を評価 ⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒岡本太郎というコンテンツを通して、川崎市岡本太郎美術館をはじめ、これまでつながりの無かった諸機関や研究者との連携・交流が生まれた。また太陽の会からの協賛は、企業協賛の実績として今後の事業資金調達の検討に資する事例となった。(2019,3,15) 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒展覧会、関連イベント、メディアからの取材によって「太陽の鐘」という地域資源に対する認知向上につながったと思われる。(2019,3,15) 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒多くの来場者が来たことでアンケートの回答数も多く、従来よりも客層や広報効果に関する情報(サンプル)が多く得られた。また、美術館をあまり利用しない市民の来館が多かったことで、そうした市民に配慮した展示の設計(解説の難易度、事故防止策など)の必要性について考えさせられた。(2019,3,15)												

	事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	①岡本太郎記念館との関係 ・担当者の交代により事業の進行に遅延が生じたことで、借用館に不信感を与えた →担当者・副担当者による計2名体制での業務遂行を原則として、バックアップの仕組みを整える必要がある その上で先方との情報・進捗共有を密にして不信感を極力与えないよう、配慮を徹底する必要がある ②借用作品への汚損行為(事故) ・来館者(6歳前後)が展示中の作品に故意に触れ、汚損するという事案があった →今後は接触の際に破損のリスクが大きい作品(無額装・アクリル無しの絵画、フラジャイルな立体作品など)や他館からの借用作品には、テープ結界やロープ結界などを配置することを原則化する必要がある			
引継ぎ事項 (特記事項)	テープ結界やロープ結界、サインを使用した事故防止を徹底する				
コメント・意見	館長 副館長	新しい来館者の獲得と市内関係者との連携において大きな成果を残した。担当者の交代に伴うトラブルについては、情報と進捗の共有を館全体で行い、再発防止に努めたい。			
	運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16

①アンケート回答数(1182人 …男504 女678 不明17)

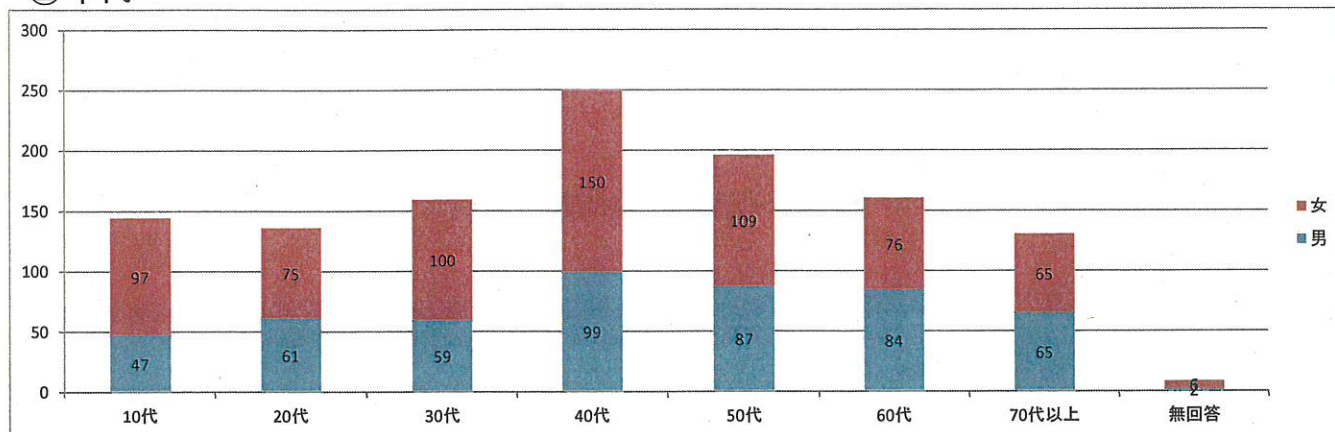


無料 10月中

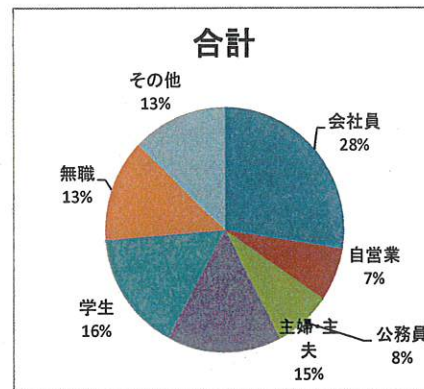
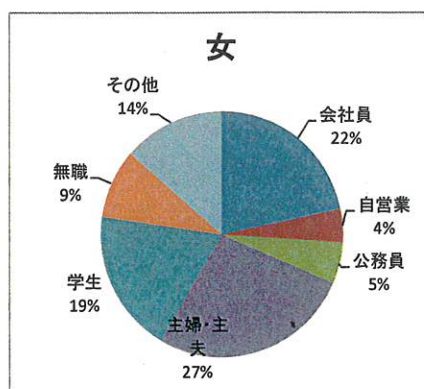
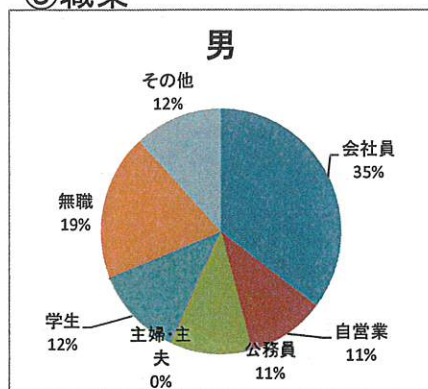
有料 11月から1月まで

本数字は期間中通算

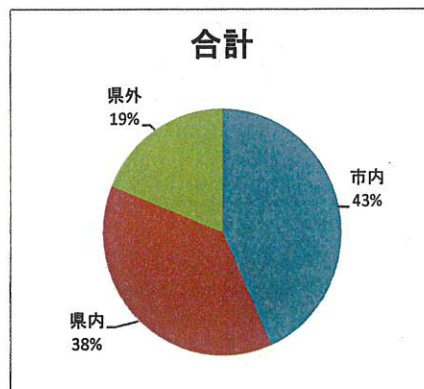
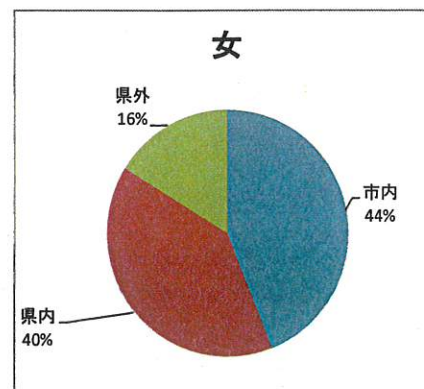
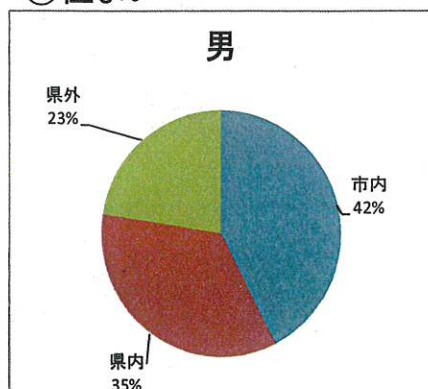
②年代



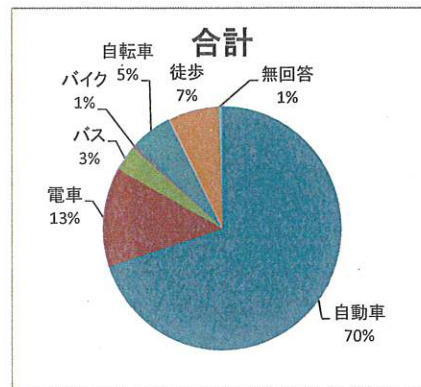
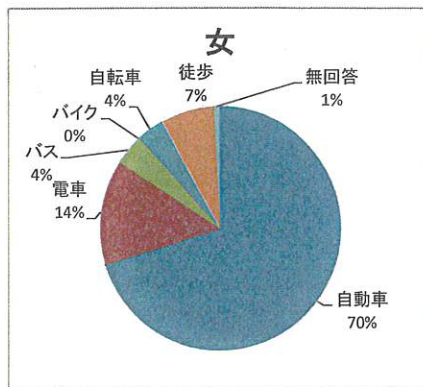
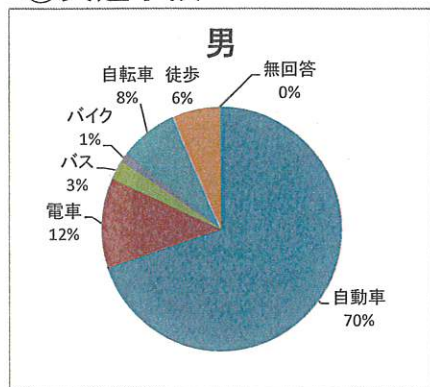
③職業



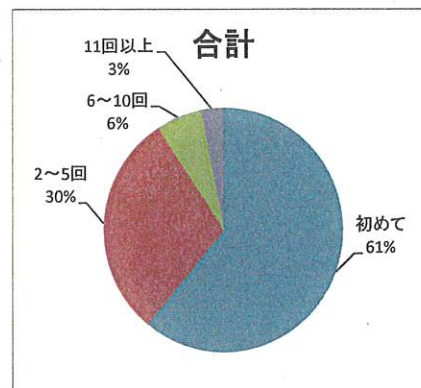
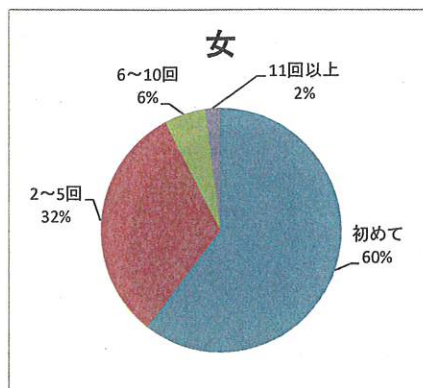
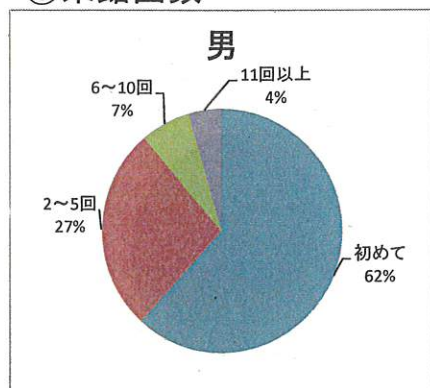
④住まい



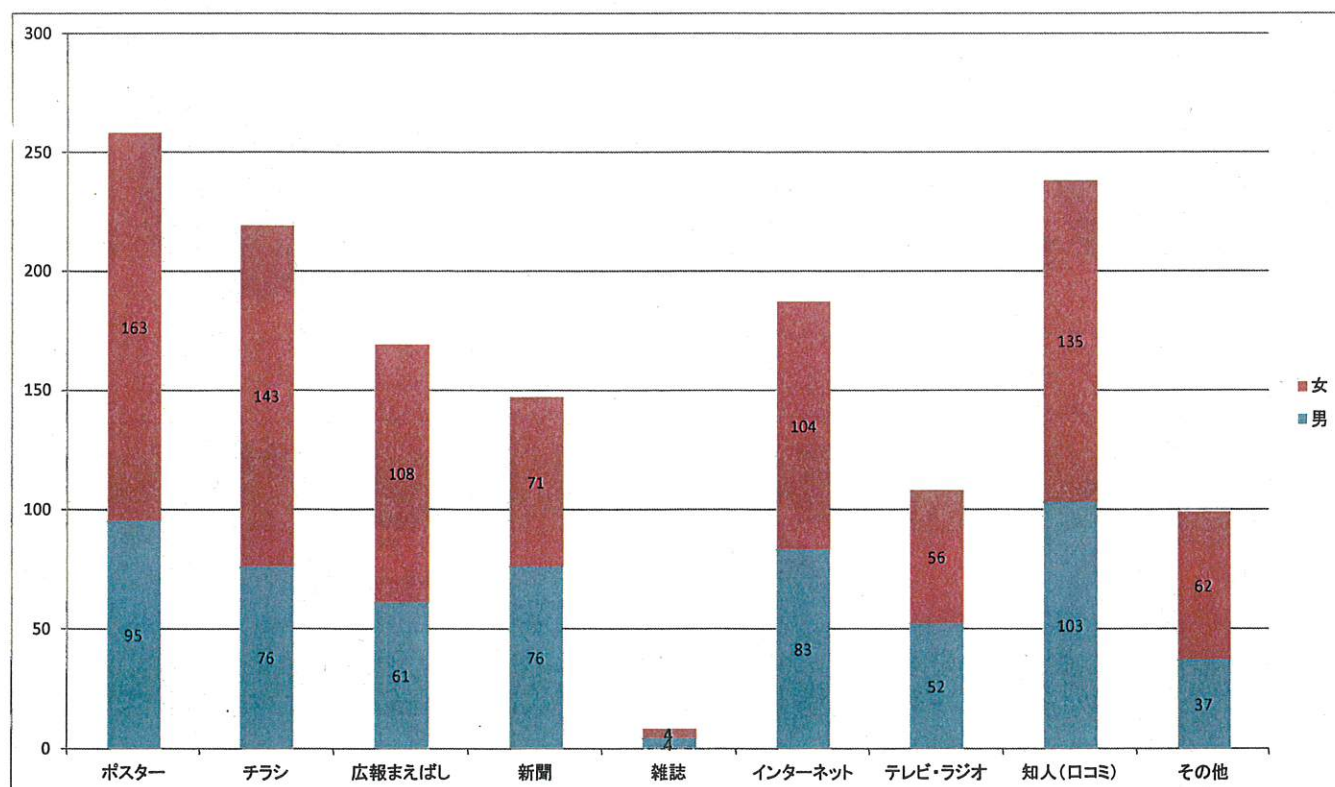
⑤交通手段



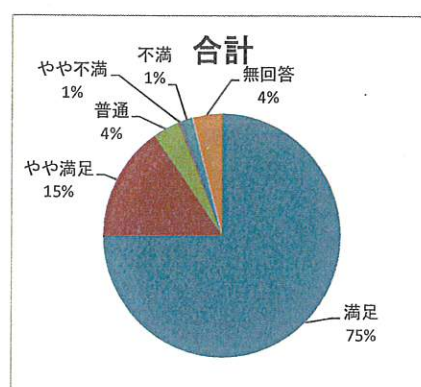
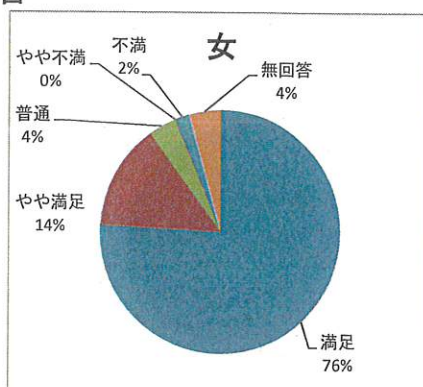
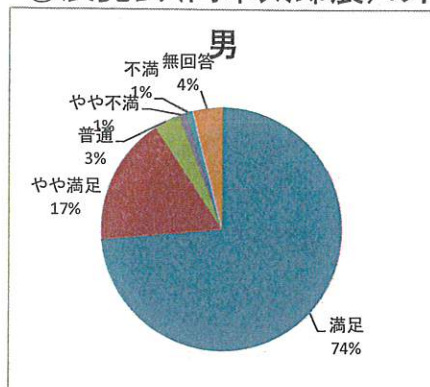
⑥来館回数



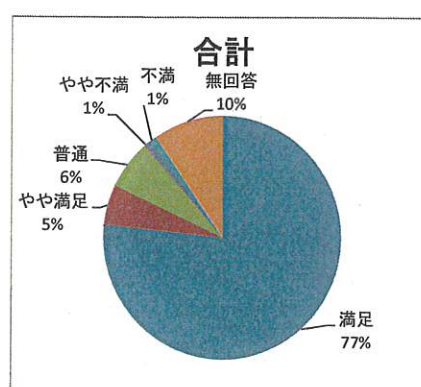
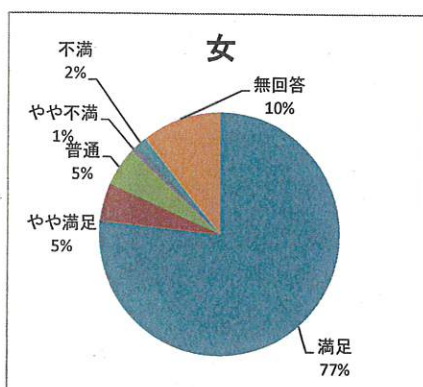
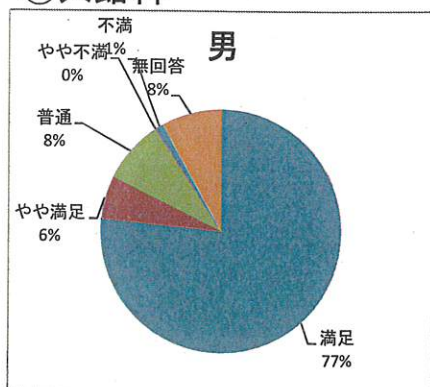
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



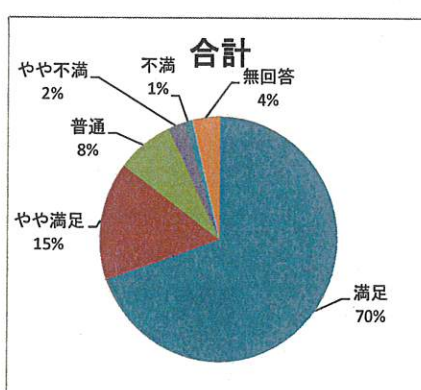
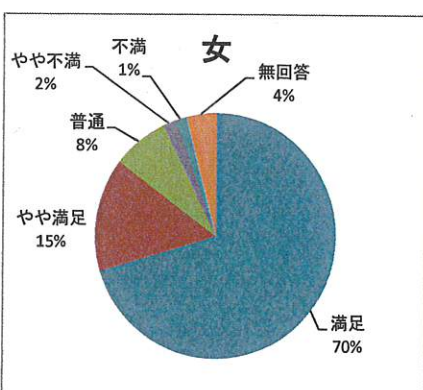
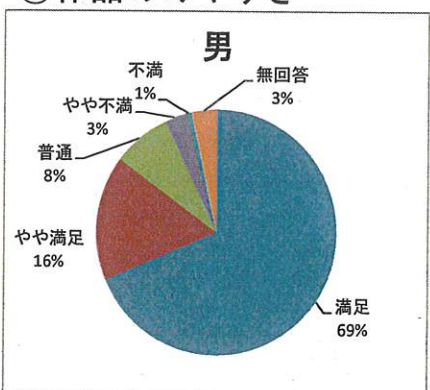
⑧展覧会(岡本太郎展)の内容



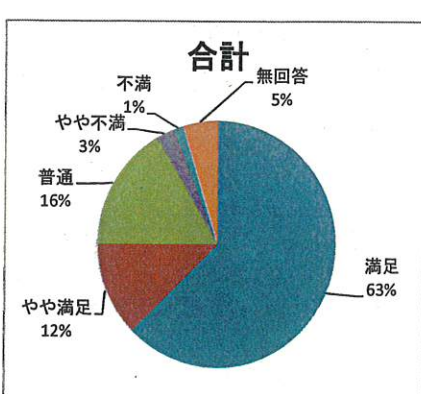
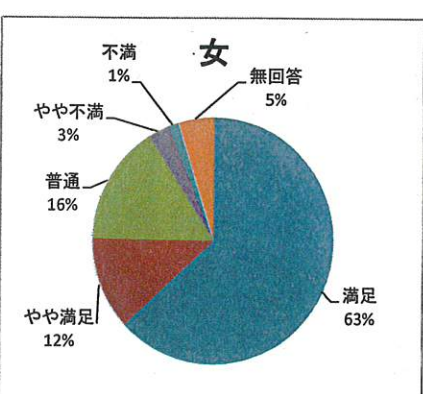
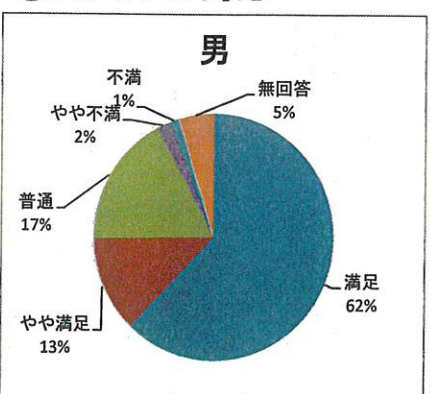
⑨入館料



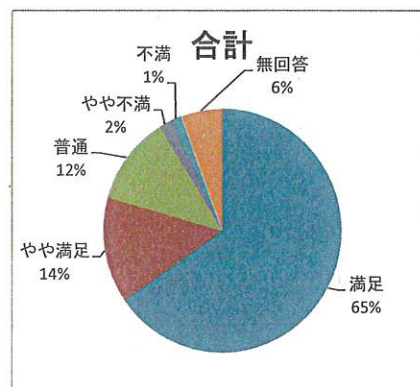
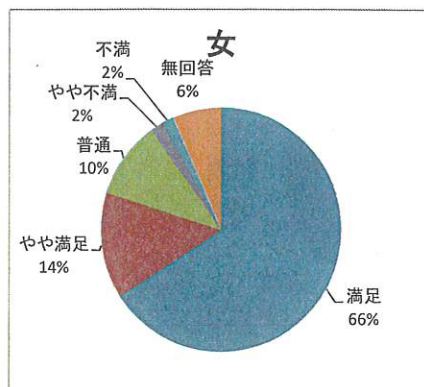
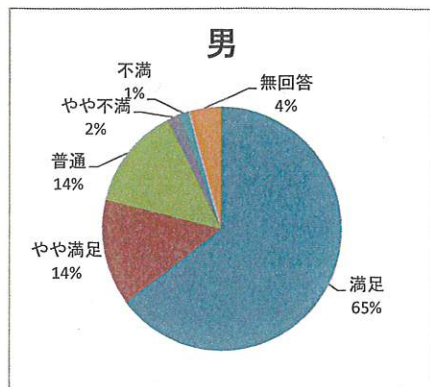
⑩作品のみやすさ



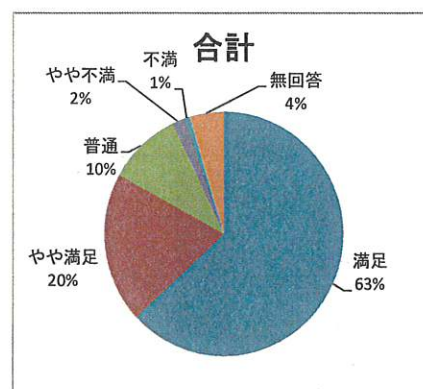
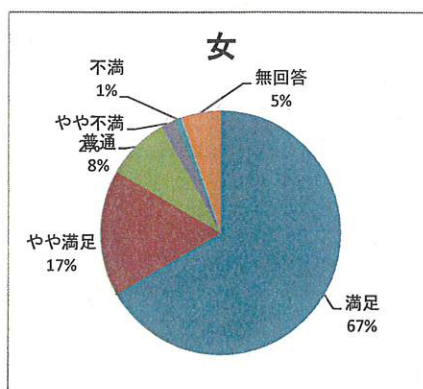
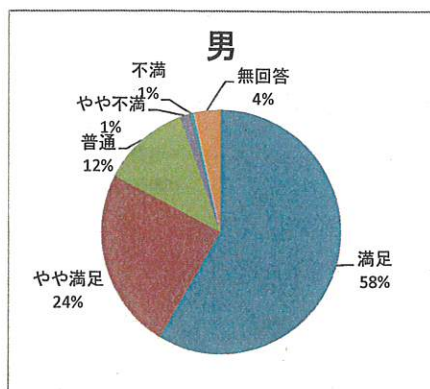
⑪スタッフの対応



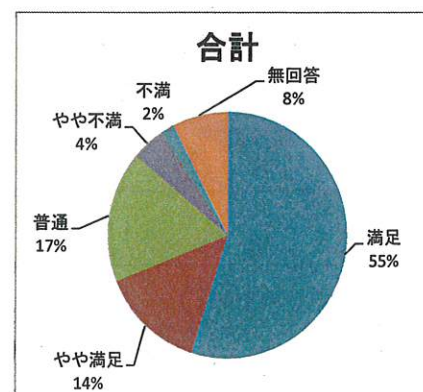
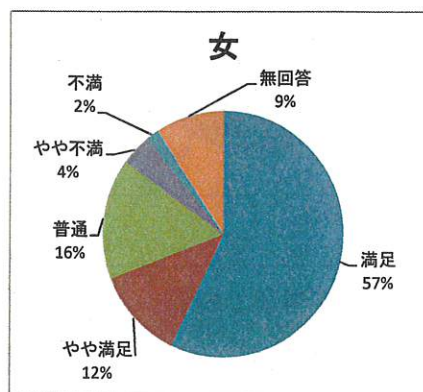
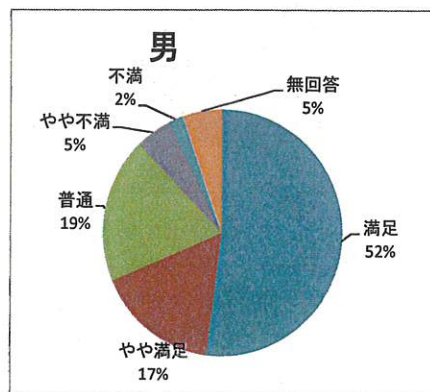
⑫施設の利用のしやすさ



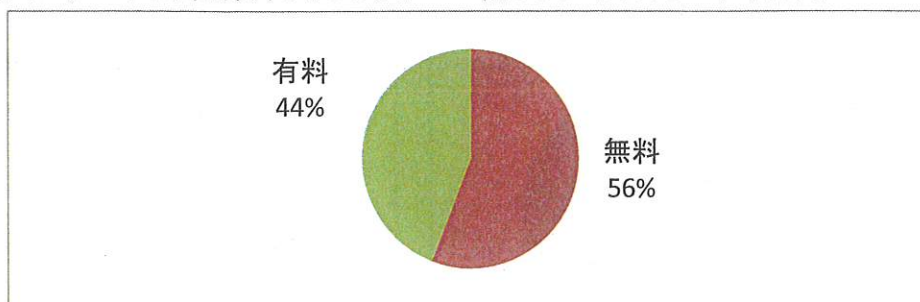
⑬アーツ前橋全体の印象



⑭アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



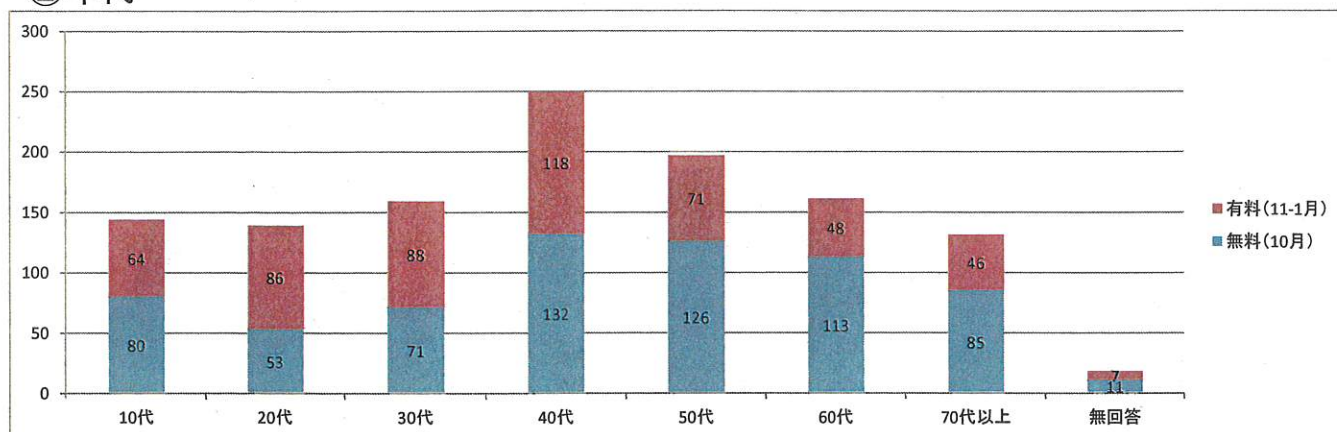
①アンケート回答数(1199人 …男504 女678 不明17)



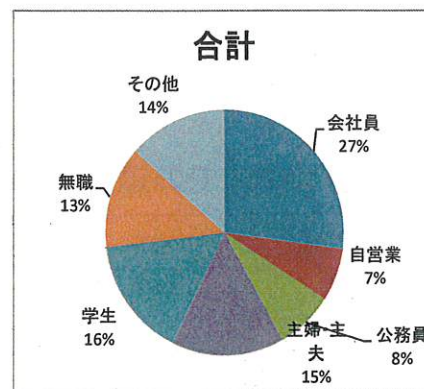
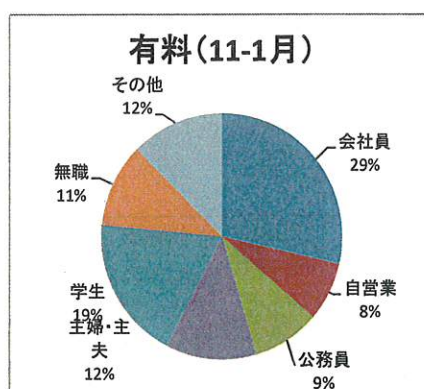
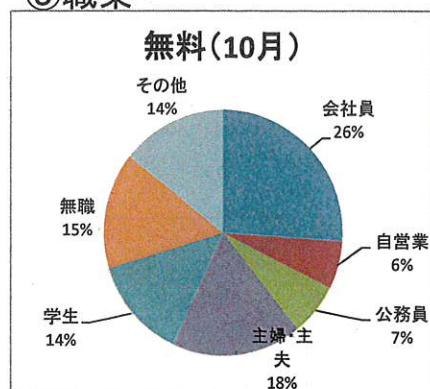
無料 10月中

有料 11月から1月まで

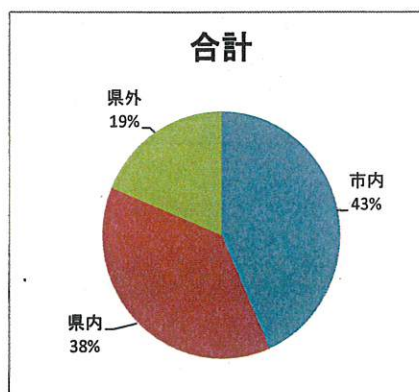
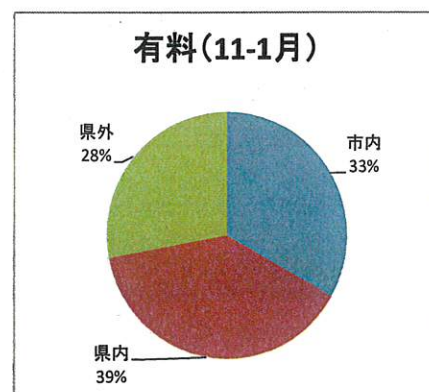
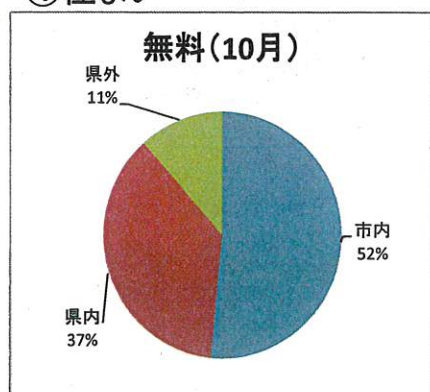
②年代



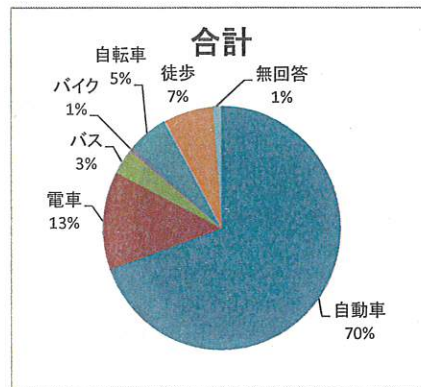
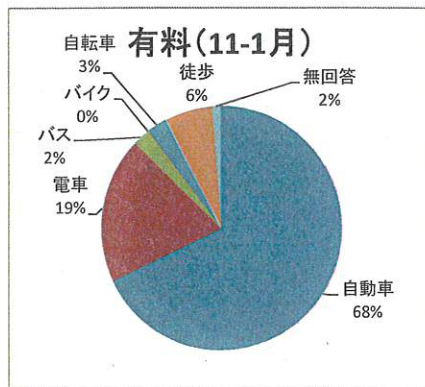
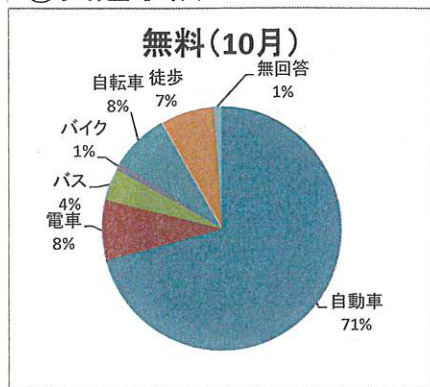
③職業



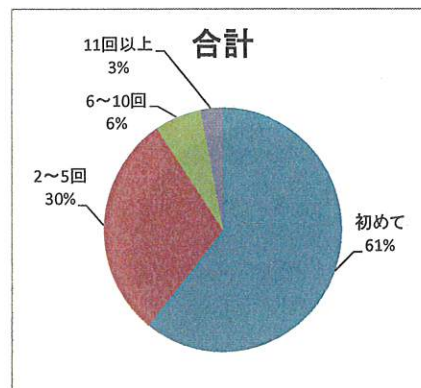
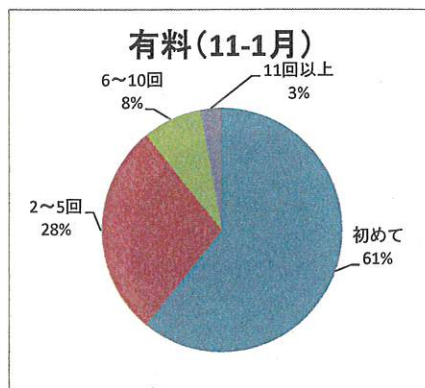
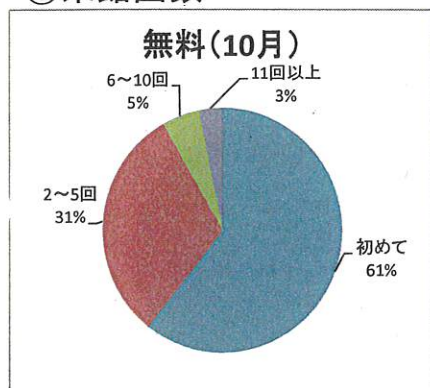
④住まい



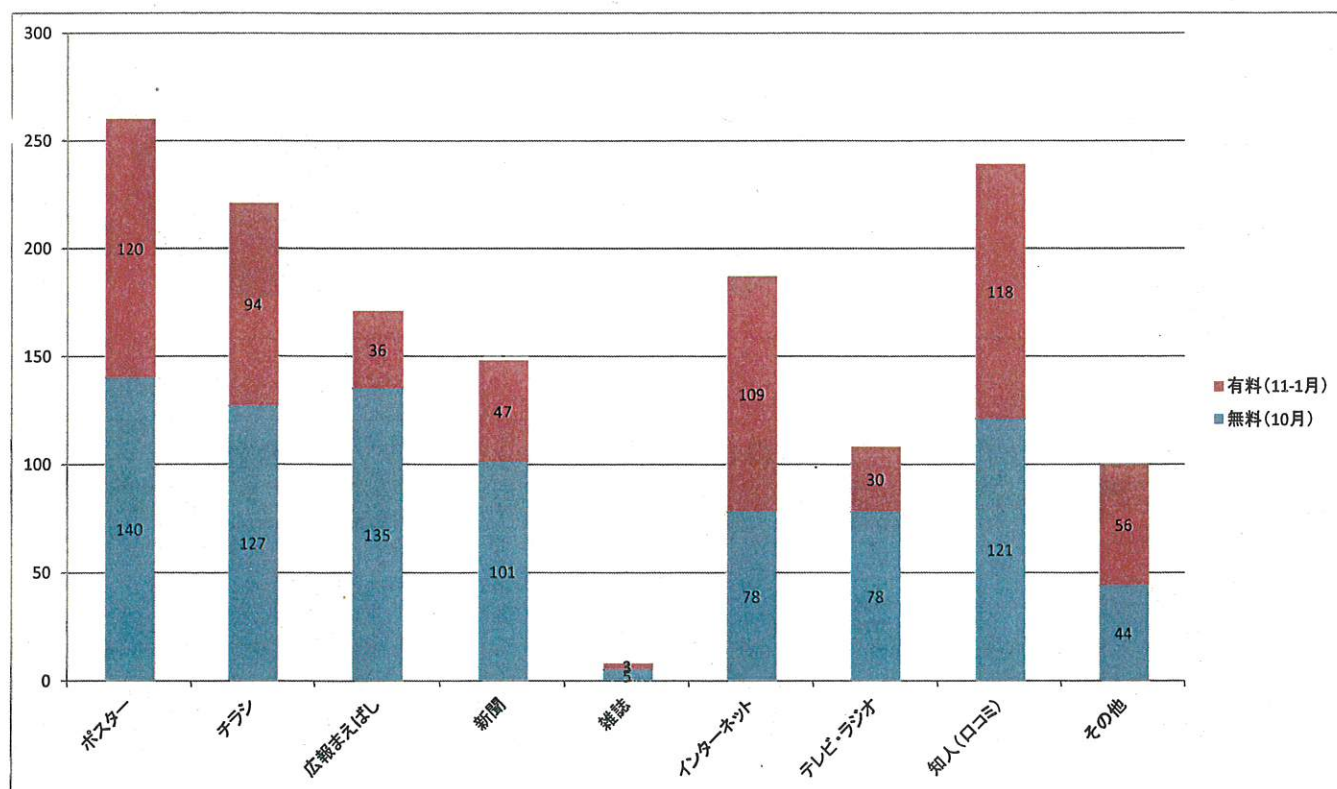
⑤交通手段



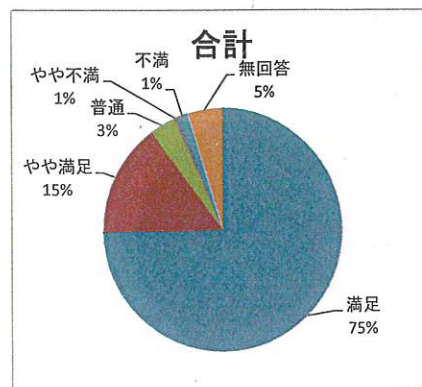
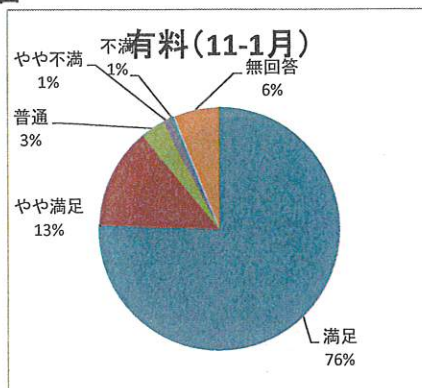
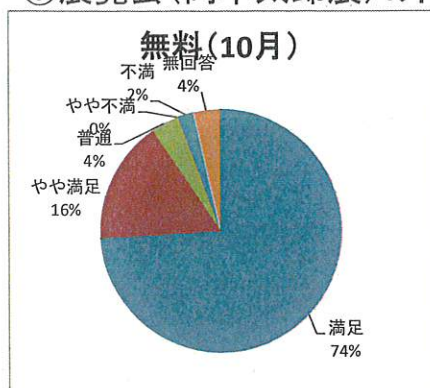
⑥来館回数



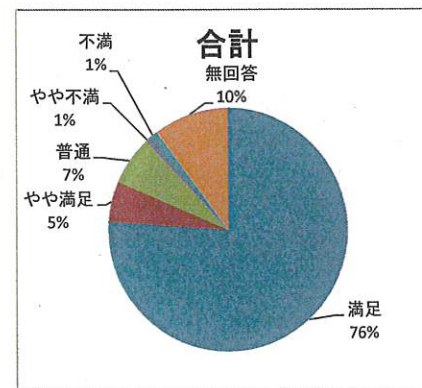
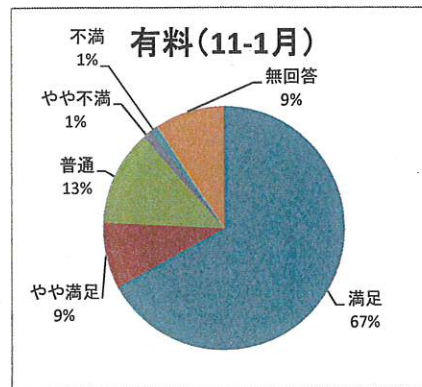
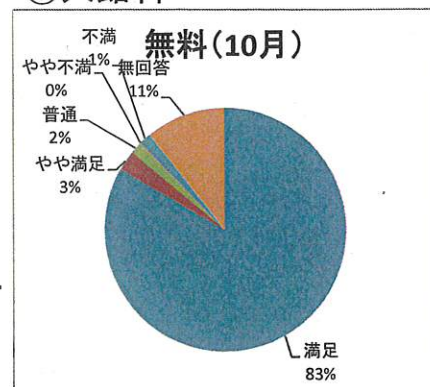
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



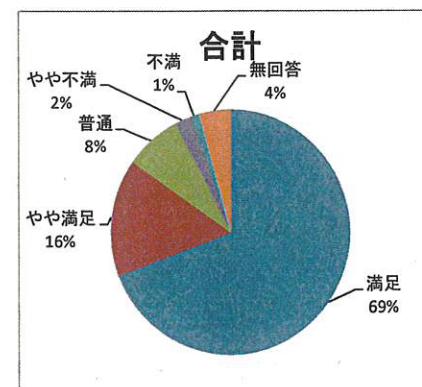
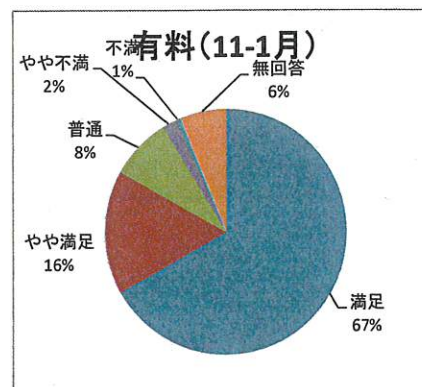
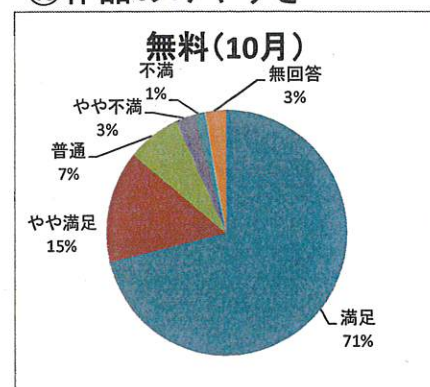
⑧ 展覧会(岡本太郎展)の内容



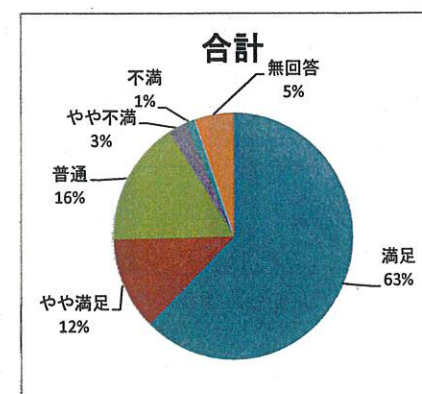
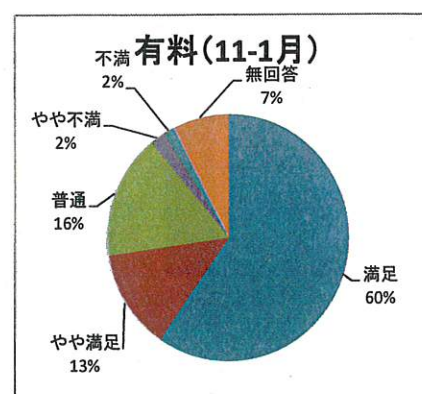
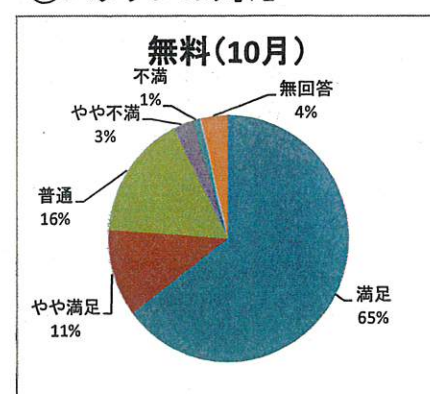
⑨ 入館料



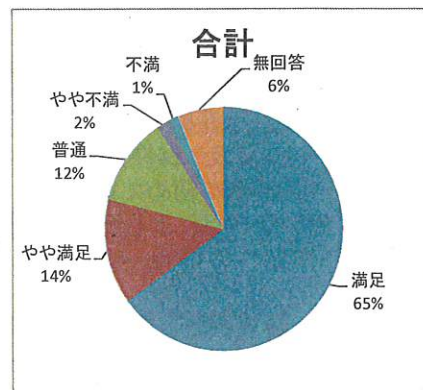
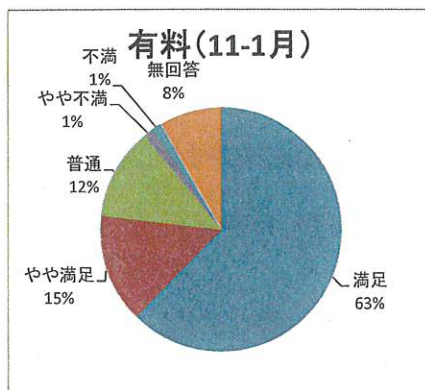
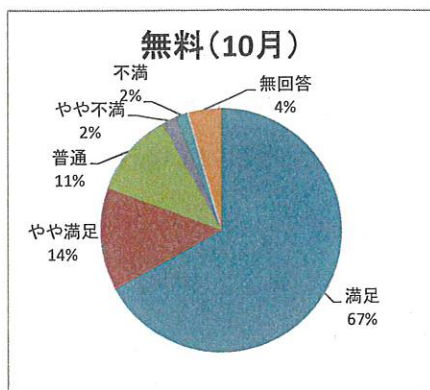
⑩ 作品のみやすさ



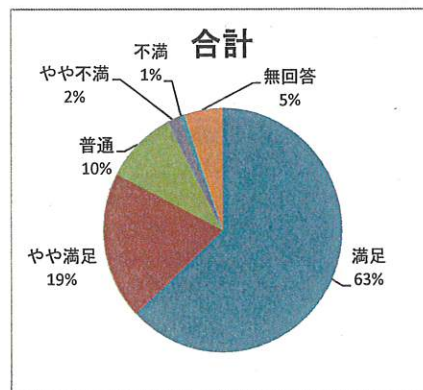
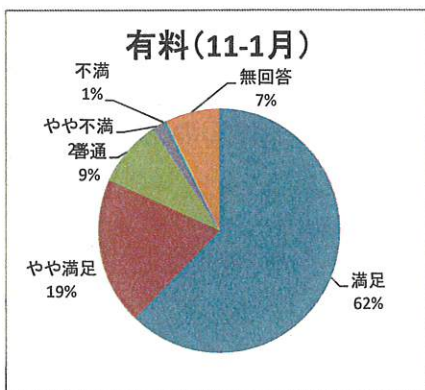
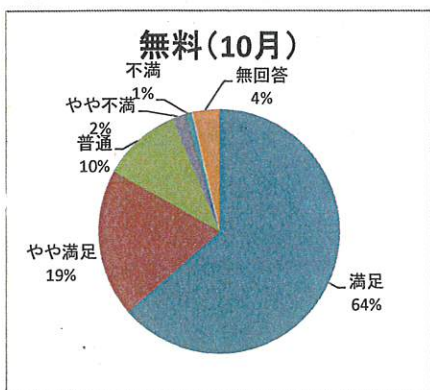
⑪ スタッフの対応



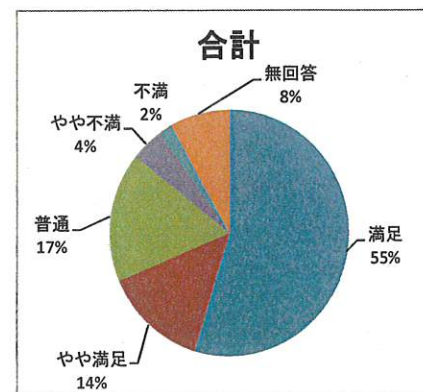
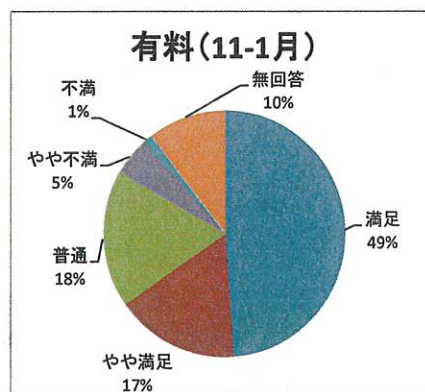
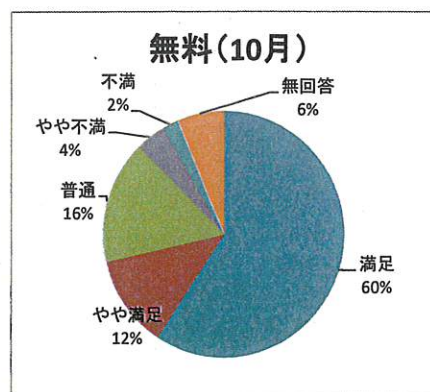
⑫施設の利用のしやすさ



⑬アーツ前橋全体の印象



⑭アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(主な感想・意見)

自由記述欄の有効回答数 621件

観覧料無料への言及 24件・・・よかった・うれしい[5]／来やすい[2]／料金に対して質・量が充実している[10]／そ
美術館・アーツ前橋に初めて訪問した 10件
会場構成(赤いテープによるテキスト掲出)への好評 17件
関口光太郎作品への好評 43件

- ・とても充実した展覧会だと思うが、一般市民の方々の感心が薄いのが残念だ。(女性・60代)
- ・近くにいながら、こちらはなかなか来たいと思う企画がなく今日は「岡本太郎」ということで伺いました。(女性・50)
- ・入場料が無料だったのでとても良かったです。前橋祭りに来たら通りがかりで見つけました。充実できました。(女性・20代)
- ・岡本太郎の文章がデザインとして配置されているのがおもしろかった。岡本太郎作品に対する理解が深まったと思う。(女性・20代)
- ・岡本太郎展を無料で見られてよかった。アーツ前橋の存在は知っていたが、ちょっと敷居が高い気がしていた。(女性・50代)
- ・関口光太郎さんの作品がとても印象的でした 岡本太郎さんの流れを継承した若いエネルギーと情熱を感じました。(性別・年代未記入)

データの数 / 6 来館回数

	初めて	2-5	6-10	11回以上	未記入	總計
前橋市内	235	201	44	25	11	516
県内	296	117	24	5	6	448
県外	179	32	5	5	1	222
未記入	3		1	1	8	13
總計	713	350	74	36	26	1199

データの数 / 6 来館回数

	初め	2-5	6-10	11以上	未記入	總計
前橋市内	46%	39%	9%	5%	2%	100%
県内	66%	26%	5%	1%	1%	100%
県外	81%	14%	2%	2%	0%	100%
未記入	23%	0%	8%	8%	62%	100%
總計	59%	29%	6%	3%	2%	100%

データの数 / 6 来館回数

	初めて	2・5	6・10	11回以上	未記入	総計
前橋市内	33%	57%	59%	69%	42%	43%
県内	42%	33%	32%	14%	23%	37%
県外	25%	9%	7%	14%	4%	19%
未記入	0%	0%	1%	3%	31%	1%
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

データの数 / 7媒体計 (複数)

	初めて	2・5	6・10	11回以上	未記入	総計
ポスター	137	88	17	12	6	260
チラシ	110	70	27	10	4	221
広報まえばし	76	65	16	10	4	171
新聞	87	47	8	4	2	148
雑誌	7	0	1	0	0	8
ネット・SNS	115	45	17	8	2	187
テレビラジオ	72	31	5	1	0	109
知人口コミ	156	65	8	4	6	239
その他	59	24	8	8	1	100
未記入	12	7	3	2	8	32
回答数 合計	831	442	110	59	33	1,475
回答者数 合計	713	350	74	36	26	1,199

データの個数 / 7媒体計 (複数回)

	初めて	2・5	6・10	11回以上	未記入	総計
ポスター	53%	34%	7%	5%	2%	100%
チラシ	32%	32%	12%	5%	2%	100%
広報まえばし	40%	44%	33%	9%	6%	100%
新聞	59%	32%	5%	3%	1%	100%
雑誌	88%	0%	13%	0%	0%	100%
ネット・SNS	61%	24%	9%	4%	1%	100%
テレビラジオ	86%	28%	5%	1%	0%	100%
知人口コミ	85%	27%	3%	2%	3%	100%
その他	59%	24%	8%	8%	1%	100%
未記入	38%	22%	9%	6%	25%	100%
回答数 合計	56%	30%	7%	4%	2%	100%
回答者数 合計	59%	29%	6%	3%	2%	100%

データの数 / 7媒体計 (複数)

	初めて	2-5	6-10	11以上	未記入	総計
ポスター	19%	25%	23%	33%	23%	22%
チラシ	15%	20%	28%	15%	18%	18%
広報まえばし	11%	19%	22%	28%	15%	14%
新聞	12%	13%	11%	11%	8%	12%
雑誌	1%	0%	1%	0%	0%	1%
ネット・SNS	16%	13%	23%	22%	8%	16%
テレビデオ	10%	9%	7%	3%	0%	9%
知人口コミ	22%	* 19%	11%	11%	23%	20%
その他	8%	7%	11%	22%	4%	8%
未記入	2%	2%	4%	6%	31%	3%
回答数 合計	117%	126%	144%	164%	127%	123%
回答者数 合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

データの数 / 7媒体1

	前橋市内	県内	県外	未記入	総計
行方不明者	143	85	30	2	260
ポスター					
チラシ	127	70	23	1	221
広報まえばし	161	8	2	0	171
新聞	55	82	11	0	148
雑誌	1	3	4	0	8
ネット・SNS	46	67	73	1	187
テレビラジオ	23	50	36	0	109
知人口コミ	95	95	48	1	239
その他	38	40	22	0	100
未記入	7	11	4	10	32
回答数 合計	696	511	253	15	1,475
回答者数 合計	516	448	222	13	1,199

データの数 / 7媒体1

	行方レベル	前橋市内	県内	県外	未記入	総計
	ボスター	55%	33%	12%	1%	100%
	サタラ	97%	32%	10%	0%	100%
	広報まえばし	94%	5%	1%	0%	100%
	新聞	37%	55%	7%	0%	100%
	雑誌	13%	38%	50%	0%	100%
	ネット・SNS	25%	39%	36%	1%	100%
	テレビラジオ	21%	46%	33%	0%	100%
	知人口コミ	40%	40%	20%	0%	100%
	その他	38%	40%	22%	0%	100%
	未記入	22%	34%	13%	31%	100%
	回答数 合計	47%	35%	17%	1%	100%
	回答者数 合計	43%	37%	19%	1%	100%

データの数 / 7媒体1

行方	前橋市内	県内	県外	未記入	総計
バス	28%	19%	14%	15%	22%
タクシー	25%	16%	10%	8%	18%
広報まえばし	3%	2%	1%	0%	14%
新聞	11%	18%	5%	0%	12%
雑誌	0%	1%	2%	0%	1%
ネット・SNS	9%	15%	33%	8%	16%
テレビ・ラジオ	4%	11%	16%	0%	9%
知人口コミ	18%	21%	22%	8%	20%
その他	7%	9%	10%	0%	8%
未記入	1%	2%	2%	77%	3%
回答数 合計	135	114	114	115	123
回答者数 合計	100%	100%	100%	100%	100%

[illegible]

- ・ 初来館は県内在住者が多く、リピーターは市内在住者が多い (A+C)
- ・ 県外来館者の約 8 割が初来館、市内在住者の約半数がリピーター (B)
- ・ 初来館者に訴求力がある広報方法は「口コミ」と「ポスター」(F)
- ・ リピーターの方が「ポスター」「チラシ」「広報まえばし」に反応する (F)
- ・ 市内在住者への広報は「広報まえばし」が最も有効 (H+I)
- ・ 県外在住者には「SNS」による情報発信が有効 (I)
- ・ バス等公共交通機関への広告に効果があった (I)

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	滞在制作事業(海外)						
	事業1	アーティスト	ゲートゲンス・ヒルシュ	期間	5/16-5/21 調査 7/18-8/30 滞在	日数	50	
	事業2	アーティスト	スン・テウ	期間	9/1 -9/8 調査 11/13-12/27 滞在	日数	53	
	事業3	アーティスト	-	期間		日数		
	担当者	五十嵐学芸員、佐藤副主幹						
	目的・目標 (総括表)	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。 前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。						
	キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘						
	他団体との連携 (共催、協力等)	コーディネイト業務を一部外部団体に委託 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業						
	参加作家	ゲートゲンス・ヒルシュ		スン・テウ				
	関連イベント・人数	ゲートゲンス・ヒルシュ オープンスタジオ/アーティスト・トーク 8月26日						
スン・テウ オープンスタジオ/アーティスト・トーク 12月16日								
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	&Arts14号	&Arts15号					
		3,500 部	3,500 部					
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						観覧料	文化庁	自治総他
	予算	-	3,576,000 円	-	-	-	2,730,000 円	-
	決算見込	-	3,448,653 円	-	-	-	2,730,000 円	-
	差額		-127,347 円	-	-	-		-
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。					
		広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	8/19 上毛新聞「滞在制作でインコ調査 独2アーティスト26日スタジオ公開」 8/27 上毛新聞「独2人組がアート活動 市内滞在の成果披露」					
		新たな試 みの実績	「文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流文化促進事業」の助成金を取得した。 2019年度からの滞在制作交流事業に向け、台湾・韓国のレジデンススペースの調査を行った。					
	③ 結果	数値目標	指標1	目標	イベント回数:2回		実績	3回
指標2			目標	参加者数:200名		実績	122名	
指標3			目標			実績		
コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)					---			
進捗管理 [スケジュール観]		①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)						

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作事業(海外)			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層 のターゲッ ト (転記)	近隣住民、市内在住者		
		成果	ゲートゲンス・ヒルシュラの滞在においてはリサーチの対象となった野鳥の調査から、それらに興味を持つ方々とのつながり、スン・テウの滞在においては市内のベトナム人留学生らといったこれまでの関係者とは異なる層の来場者が訪れる結果となった。		
		ねらい1 (転記)	①地域資源の発掘		
		成果	1組目のアーティスト、ゲートゲンス・ヒルシュラのリサーチ時、作家が興味を持ち、撮影を行った旧店舗あとを、その後の街中を使った展覧会「つまづく石の縁」の会場として使用することができた。		
		ねらい2 (転記)	②海外での発信		
		成果	各アーティストのHPでの展示風景、インタビュー情報の掲載があった		
		ねらい3 (転記)	③多文化交流の機会創出		
		成果	スン・テウの滞在では、市内のベトナム人コミュニティとつながり、外国人留学生らの現状把握、また留学生のネットワークとの接点の創出となった。		
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒スン・テウ:ロンドン、ベルリンにて展示に作家、シンガポール(NTU center for contemporary art Singapore)にて2019年に滞在制作を予定している。(20190310) 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒スン・テウ:それまでつながりのなかった市内在住のベトナム人留学生らのネットワークが作家を通じて生まれた。(20190310) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒昨年度までの滞在制作事業の蓄積により、H30年度は滞在制作をおこなったアーティスト10名による中心市街地を会場とした展覧会が開催できた。(20190310) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒アーティストがリサーチの対象とした使われていない物件をその後、展覧会会場として利用。(20190310) 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし			
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	外部コーディネーターの導入により、業務の軽減につながったが、アーティスト・コーディネーター・運営の3者での協議の場や進捗の報告などコミュニケーションの場をより多く作る必要が生まれてきた。 またアーティストの制作スケジュールに合わせパブリックプログラムを予定することで、展覧会などの他事業との日程調整が難しくなるため、今後は事前スケジュール設定を行いたい。			
	引継ぎ事項 (特記事項)				
コメント・意見	館長 副館長	短期間で招聘作家の意図を理解し、うまくコーディネートすることができるようになってきている。今後は、言語能力やリサーチの支援体制を充実させていきたい。			
	運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	滞在制作(群馬県ゆかり)							
	事業1	アーティスト	羽山 まり子	期間	9/12 -11/7	滞在	日数	56	
	事業2	アーティスト	尾花 賢一	期間	2/7 -3/30	滞在	日数	32	
	事業3	アーティスト	-	期間			日数		
	担当者	五十嵐学芸員、吉田学芸員、佐藤副主幹							
	目的・目標 (総括表)	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。 前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。							
	キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘、地域ゆかりの作家の発掘・支援							
	他団体との連携 (共催、協力等)	助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業							
	参加作家	羽山 まり子		尾花 賢一					
	関連イベント・人数	羽山 まり子 オープンスタジオ/アーティスト・トーク 10月27日							
尾花 賢一 オープンスタジオ/アーティスト・トーク 3月17日									
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	&Arts16号							
		3,000 部							
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳			
						観覧料	文化庁	自治総他	
		予算	-	900,000 円	-	-	-	-	-
		決算見込	-	616,000 円	-	-	-	-	-
		差額		-284,000 円	-	-	-	-	-
予算/決算		68.4%	-	-	-	-	-		
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行う。						
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	年齢の枠を設け、若手の支援も行う。演劇などの美術以外の多様なジャンルの受け入れを行う。						
		広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	該当なし						
		新たな試 みの実績	公募の広報期間を前年度より長くすることで応募者の増加につながった。						
③ 結果	数値目標	指標1	目標	イベント回数:2回	実績	2			
		指標2	目標	参加者数:200名	実績	最終集計前につき不明			
		指標3	目標		実績				
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				---			
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)							

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名		滞在制作(群馬県ゆかり)				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	近隣住民、県内在住者			
		成果	アーティスト(羽山氏)自身のプロジェクトにより、通常のオープンスタジオの来場者とは異なる対象へのリーチが可能となった。			
		ねらい1 (転記)	①幅広い表現者の紹介			
		成果	これまで群馬県内での発表の機会のなかった作家の紹介につながった。			
		ねらい2 (転記)	②館外活動により、幅広い層への活動紹介			
		成果	作家の拠点となるスタジオが一階に位置し、広くとられたガラス面を有効利用した制作・展示を行うことで、常時制作を公開しているような状況を作り出した。			
		ねらい3 (転記)				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒羽山氏:メキシコでの滞在・展覧会に参加、尾花氏:真鶴まちな一れに参加(20190310) 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒羽山氏:滞在期間中には制作に用いるための意図を制作するため、養蚕をおこなう方と共同を行った。またそれらを製糸するなどその後もプロジェクトが継続している。(20190310) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒滞在を2か月程の期間の中で30日以上とすることで、分割した滞在を行うことができ、アーティスト自身が制作期間と日常との往復を繰り返すことで客観的な視点を持ちながら制作を行うことができた。(20190310) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒技術・文化の継承のため養蚕を行う若手生産者との共同を行った(20190310) 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒太田市のラジオへの出演(尾花氏)				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	本年度、公募の段階では「年齢制限なし」と「30歳以下」の部を設けたが、30歳以下の該当者がいない結果となった。若手の支援として始めたが、年齢制限をかえるまたはプログラムの見直しが必要である。				
引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見		館長 副館長	参加作家も制作動機が高く、地元ゆかりのある作家の発掘に成果をあげている。館として若手作家の支援をどのようにおこなっていくべきか検討を加えていきたい。			
		運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成											
	会期	2018年10月12日～11月4日							開館日数	—			
	会場(ギャラリー)	市内中心市街地16箇所							実施方式	02自主企画・名義共催方式			
	観覧料	企画により異なる							助成団体数	11団体			
	担当者	学芸:五十嵐 純 事務:堺 大輔											
	目的・目標	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出 ・市内を中心に文化活動が続ける団体・個人とのネットワーク形成											
	キーワード	地域で文化活動を行う市民への支援、回遊性向上											
	他団体との連携 (共催、協力等)	主催:アートによる文化交流推進実行委員会(事務局、共催:アーツ前橋)											
	参加作家(団体)	ちよこ工房			ya-gins			芽部			ハラサワコレクション		
	関連イベント	上州文化ラボ Mouthfeel of R 山賀ざくろ企画 ギャラリーアートスプーなど 「アートのマインドを育てるws」、「ya-gins vol.30加藤アキラ」、「猫と市の写真 街なか展覧会」											
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	チラシ・フライヤー 助成団体で作成											
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	自治総他	中心協					
	予算	—	2,000,000 円	—	—	—	—	—					
	決算見込	—	1,889,990 円	—	—	—	—	—					
	差額	—	-110,010 円	—	—	—	—	—					
予算/決算	—	94.5%	—	—	—	—	—						
② 内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要(転記)	過去4年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。										
	〔②活動〕主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 エー+ニ	・広報戦略 ・新たな試み(転記)	・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・めぶくフェス(アート部門)との役割分担										
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	統一の印刷物を作らず、それぞれの団体が印刷物を制作										
		新たな試みの実績	長期的な活動と自立した運営へとつながるよう、統一の印刷物を作らず、それぞれの団体が印刷物を制作し、自ら広報を行うよう促した。助成対象期間を1か月ほどとこれまでより長くすることで、助成採択団体同士の交流を生み出すことを試みた。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,629	—
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
		支援対象団体数	10 団体	11 団体	110.0 %								
		イベント回数	20 回	26 回	130.0 %								
		参加者数	1,000 人	3,629 人	362.9 %								

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成		
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった (運営を委託したことによる情報伝達と整理に時間がかかった)		
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層 のターゲット	ターゲット:若者、近隣在住者	
		成果	それぞれの事業で対象が異なるが、参加者数3629人を数えることができた点では、近隣住民を中心に多くの方に見ていただけたと考えられる。	
		ねらい1 (転記)	①まちなかイベントの創出	
		成果	同時期に開催された「前橋めぶくフェス」のアート部門にてフェスティバルとしてのイベントが行われるため、差別化を図り、市内で文化活動を行う団体へのより長期的な活動支援へと移行した。11団体による16の事業が開催されたため、街中の継続的なイベント創出は達成できたものとする。	
		ねらい2 (転記)	②芸術文化に関わる人材の増加	
		成果	これまで3年程度活動実績のある団体を対象としたが、各団体に新しい構成員がいるなど、人材の増加にはつながるものであるとする。また、単発的なイベントの実施ではなく、長期的な支援へとシフトしていくことで、より継続的な活動がしやすい環境づくりと単年度で終わらない人材育成につながっているとする。	
⑤ 波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正 (記入日を()内に記載)	ねらい3 (転記)	-	
		成果	-	
自己評価 (担当者)	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒該当なし 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果⇒旧安田銀行担保倉庫など市内の文化的施設の利用や、中心商店街の様々なスペースを用いて展開された(2019,3,16) 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし			
	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通 4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通 4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通 4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通 4.劣る
	課題・改善点	すでに助成事業として5年継続して開催しているため、安定した応募団体数と成果が現れていると考えられるが、より自発的な活動を促すための助成の方法を検討する必要がある。また、これまで継続した課題であるイベント実施団体の交流が十分とは言えないため、助成実施以外のプログラムで相互の関心を高める方法を検討したい。		
引継ぎ事項 (特記事項)				
コメント・意見	館長 副館長	中心市街地の芸術活動や各種イベントが変化していくなかで、実施方式を対応させてきたが、今後は発掘育成よりも継続性や連携にシフトさせていきたい。		
	運営 評議会			

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	学校連携事業(スクールプログラム)							
	(1)アーティストインスクール	時期・日数	10月～3月	会場	5校	参加費	(無)・()円		
	(2)教員向け広報物作成	時期・日数	11月	会場	-	参加費	(無)・()円		
	(3)無料招待ウィーク	時期・日数	7月、11月、2月	会場	アーツ	参加費	(無)・()円		
	担当者	山田学芸員、新保補佐、榎本囑託員							
	目的・目標 (総括表)	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。							
	キーワード	学校との対話、他者への視点、異文化交流							
	他団体との連携 (共催、協力等)	アーティストインスクール: 桃井小、わかば小、桃川小、東中、六中 NPO法人まえばしプロジェクト							
	参加作家	イルワン、ティタ	住中浩史	中島佑太					
	関連イベント・数	AIS: 桃井小 AIS: わかば小 AIS: 桃川小 AIS: 東中 AIS: 六中 先生のための無料招待ウィーク							
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	H30スクールプログラム	ラーニングドキュメント	AIS報告書					
		2000部	2000部	3000部	-	-			
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳			
						参加費	助成金	他	
	予算	-	989,400 円	-	4,947 円				
	決算見込	-	900,318 円	-	3,864 円				
	差額	-	989,400 円	-	-	-		-	
	予算/決算	-	91.0%	-	-	-		-	
	② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	(1)アーティスト・イン・スクール: アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク: 児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す					
		〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	実施予定校を前年度に調整し、決定する					
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・各学校の学校だよりにおいてAISのプロジェクトについて掲載。 ・前橋市立わかば小学校での実施に際して、担当教員がAISについてFMぐんまで取材・放送された。 ・これまで年度が明けてから制作されていた事業報告書について、早めに原稿や写真など動き出すことで年度内に制作。実施した学校の児童・生徒へ届けることができた。						
		新たな試みの実績	・前年度より計画を立てることはできなかったものの、教育委員会とNPOとの話し合いで実施する学校を決めることができた。 ・学校連携事業を含め、これまで5年間のラーニングをまとめた冊子を制作し、アーツ前橋での事業の総体や、そのなかでの当該プログラムの立ち位置などを実施学校へわかりやすく伝えることができた。						
③ 結果	数値目標	指標1	目標	AIS実施校数: 4校		実績	5校		
		指標2	目標	AIS参加者数		実績	233人		
		指標3	目標	先生の招待(参加者数)		実績	19人		
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:							

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名		学校連携事業(スクールプログラム)
④ 成果	参加者層のターゲット (転記)	(1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員
	成果	・小学生から中学生まで前橋市内の児童・生徒へプログラムを届けることができた。また、住中プログラムでは学校教員との対話を重視しながら企画を作っていたために学校の理解を得ながら進めることができた。
	ねらい1 (転記)	児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る
	成果	・住中浩史×東中学校で行った美術部のインスタレーション制作では、アーティストと対話を通じて考えることで、自分たち自身のテーマと素材で多様な表現を積極的に行うことにつながった。
	ねらい2 (転記)	アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく
	成果	イルワン、ティタ×桃井小学校では、映像や写真、アーティストの言葉によってインドネシアを想像して絵を描くことなどの表現行為へとつながった。 ・住中浩史のプログラムでは、部活動の生徒たちのみならず、担当した教職員が学校の中でいかに主体的な表現が可能かを考えるきっかけとなった。
	ねらい3 (転記)	
⑤ 波及効果		<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒ 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒中島佑太プログラムでは、南橋団地での表現の森のプロジェクトへの参加者の広がりが生まれた。 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒第59回関東甲信越静地区造形教育研究大会において、中学部門では六中の公開授業でAISとしてかわかるほか、小学校のパネル展示ではわかば小学校の事例が紹介される予定。 5. 地域資源の活用という点での効果⇒学校の中の余裕教室に対して、アーティストを交えた学校側との対話を通じた空間を制作することで、学校のなかで主体的な学びとなるほか地域へ開く学校の拠点として今後も活用をしていくことへつながっている。 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒
自己評価(担当者)	個別評価	
	※概ね1年経過後に再確認して修正(※記入日を()内に記載)	
	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い 2.良い ③普通 4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い 2.良い ③普通 4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い ②良い 3.普通 4.劣る
課題・改善点	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い ②良い 3.普通 4.劣る
	課題・改善点	プログラムを実施するにあたって、予算内での実施校、実施回数をコントロールすることで現実的な実施回数へと落とし込む必要がある。また、コーディネーターの役割を明確にし、業務委託できる部分とそれに見合う報酬を用意することが求められる。さらに、3年目のプログラムとして活動や学校のバリエーションを増やしていくことを目指しているが、前橋市のすべての学校への当該プログラムの認知度の向上と、やってみたいと思う先生への直接のコンタクトを可能とするほか、ひいては管理職(校長・教頭)へ向けて実際の学校側のメリットについて理解を得ていかなければいけない。
引継ぎ事項(特記事項)		これまでの実施してきたプログラムについて、記録映像や記録写真を交えてアーツ前橋内部で展示もしくは発信を行い、前橋市民へプログラムを見てもらう機会を作りたいと考えている。
コメント・意見		館長 副館長 年間を通した事業なので学校とコーディネーターとの調整が難しいが、とてもいい反応を学校から得ている。どのように学校教育と協働する意義を丁寧に考えていきたい。 運営 評議会

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	あーつひろば						
	事業1	時期・日数	2018年5月12日(土)	会場	スタジオ、交流スペース	人数	70	
	事業2	時期・日数	2018年8月18日(土)	会場	スタジオ、交流スペース	人数	102	
	事業3	時期・日数	2018年11月10日(土)	会場	スタジオ、交流スペース	人数	79	
	事業4	時期・日数	2018年12月4日～26日	会場	スタジオ、交流スペース	人数	20	
	事業5	時期・日数	2019年3月23日(土)	会場	スタジオ、交流スペース	人数	実施前	
	事業6	時期・日数	-	会場	-	人数	-	
担当者	山田学芸員、高山主事、榎本囑託員							
目的・目標 (総括表)	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。							
キーワード	アーツ前橋への第一歩、親子連れの来館、サポーターの主体的な場							
他団体との連携 (共催、協力等)	サポーター							
参加作家	関口光太郎(11/10)		カナイサワコ(3/23)					
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	チラシ(A4)	ポスター					
		各回1,000枚	各回5枚					
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)÷(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
	予算	-	900,000 円	-	#VALUE!	-	-	-
	決算見込	-	685,088 円	-	#VALUE!	-	-	-
	差額	-	-214,912 円	-	#VALUE!	-	-	-
	予算/決算	-	76.1%	-	-	-	-	
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う					
	・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	・近隣の小学校全校生徒へチラシを配布したほか、A2ポスターを、元気21のプレイルームの壁に貼ってもらうことで、親子連れへ着実に広報をすることができた。 ・当日は元気21との連絡通路にもポスターを掲示し、サポーターにチラシを手配りしてもらったことによって、アーツ前橋に来館する目的がなかった人に対しても気軽に足を運んでもらうことができた。					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・初の試みとしてサポーターによる自主企画の回を設けることで、主体的に ・開催している展覧会の出品作家によるワークショップを行い、子どもたちが実際に展覧会で作品を見る機会へとつながった。 ・外の公開空地に人工芝と扇風機を導入し積極的な活用を模索した結果、通りがかりの人の目に留まり、参加者の増加となった。					
③ 結果	数値目標	指標1	目標	実施回数: 大規模:3回、小規模:3回	実績	実施回数:5回		
		指標2	目標	参加者数:450人	実績	参加者数:647人		
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				271(第5回未カウント)		
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)						

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	あーつひろば			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	ターゲット:アーツ前橋に来館したことの無い親子(隣接施設利用者等)		
		成果	・第2回では外の公開空地に人工芝を設置し、隣接する施設からより目に付きやすくする工夫をした結果、100名以上の参加者が訪れる結果となった。また、プレイルームへの広報を厚くすることで、よりターゲットとした層への確に情報を届けることができた。		
		ねらい1 (転記)	①初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する		
		成果	・プログラムの一つである「こどもアート探検」では、自分の子どもの素直な感想のほかに、一緒に参加するほかの子どもの言葉を聞くことができるのが良いという理由からリピーターになる保護者ができた。		
		ねらい2 (転記)	②サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。		
		成果	・第1回をサポーター企画として彼らのアイデアを募集・実施した。それまでは文字通りサポートする意識が高かったが、自らが自主的にプログラムを行うことで事前準備の段階から参加者と対話を重ねながら実施へ向けてプログラムを組み立てていくことへつながった。最後の振り返りでは改善点などを見つけて次回へつなげる意見も出された。		
		ねらい3 (転記)	-		
成果	-				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒前橋市はたらきはぐむProjectでの取材記事(2019,3,16) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒サポーターの中の一人が、「前橋まちなかアーツ助成」を取得して外部でのイベントを企画実施した。(2019,3,16) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果⇒該当なし 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし			
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	☒ 3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	☒ 3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	☒ 2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	☒ 3.普通	4.劣る
	課題・改善点	当日はサポーターの補助なくては成り立たないプログラムであるために、サポーターの参加が極端に少ない場合に多くの参加者に丁寧に対応することができない問題点がある。そのために年間スケジュールを正確に設定してサポーターの計画的な参加を呼び込む必要がある。またアーツ前橋への第一歩としての役割からさらに展示会(展示室)への導入や他の参加型イベントへの誘導など、次の一歩へ繋がる仕掛けをプログラムの中で作っていくことが求められる。			
引継ぎ事項(特記事項)	年間の定期的な開催に向けて、アーティストとの調整を行うほかに、サポーター企画のようにアーティスト不在のプログラムを定期的に企画・実施していきたい。 交流スペースの積極的な活用として、人工芝など目につきやすい工夫をする。				
コメント・意見	館長 副館長	サポーターやアーティストの役割について再検討が必要になっている。交流スペースの使い方や、家族連れの誘致といった目的も念頭に今後の展開を考えていきたい。			
	運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	アーツナビゲーター研修							
	(1)研修	時期・日数	7/15,8/3-4,9/8,11/16-17,3/1-2 8日間		講師	齊藤佳代		参加者数	14
	(2)おしゃべりアートデイズ	時期・日数	8/20-8/26、12/3-9、3/18-3/24 18日間		講師	ナビゲーター		参加者数	174人 (岡本太郎展まで)
		時期・日数			講師数			参加者数	
	担当者	辻学芸員、山田学芸員、榎本囑託員							
	目的・目標 (総括表)	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。							
	キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有							
他団体との連携 (共催、協力等)									
該当展覧会	時をつなぐ展		岡本太郎展		近藤嘉男展				
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	チラシ(A4)							
		500 部							
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A) / (B)	一人当たり コスト	収入内訳			
						参加費	助成金	他	
		予算	-	460,000 円 -	#REF!	-	-	-	
		決算見込	-	416,316 円 -	#REF!	-	-	-	
		差額	-	-43,684 円 -	#REF!	-	-	-	
予算/決算	-	90.5% -	-	-	-	-			
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。						
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。						
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・「おしゃべりアートデイズ」開催ごとに「広報まえばし」に参加者募集を掲載したほか、案内チラシを館内や図書館、県内美術館などで配布した。 ・友人や知人への口コミや、来場者へ趣旨を説明して参加を呼び掛けた。						
		新たな試みの実績	・昨年度まで1時間で3作品を鑑賞していたが、気軽に参加しやすいように30分で2作品を鑑賞するプログラムに変更した。短縮したことで、終了後に展覧会をもう一度自分のペースで鑑賞していく人が増えた。 ・「おしゃべりアートデイズ」当日の実施を、ナビゲーター(受講者)が中心となって運営できるような仕組み作りを模索中。ファシリテーターのシフト作成や当日の実施報告書の記載などを行っている。スケジュール調整や、意見交換用として、有志によるウェブサイトを作成した。						
③ 結果	数値目標	指標1	目標	自主研修回数:15回		実績	実施回数:20回		
		指標2	目標	おしゃべりAD参加者数:200人		実績	参加者数:174人 (岡本太郎展まで)		
		指標3	目標	受講継続者数:10人		実績	参加者数:9人		
③ 結果	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)							

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

④ 成果	事業名	アーツナビゲーター研修			
	観覧者層のターゲット (転記)	ターゲット: 事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人			
	成果	新規5名の申し込みがあった。平日は仕事を持つ社員がほとんどで、自己研鑽のために参加した人が多かった。研修以外にガイドプラン作成や自主研修などがあることから受講者の負担は大きい。事業主旨をよく理解している人が絞り込まれる結果となった。新規者の継続は2名となり、合計9名となった。			
	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	ねらい1 (転記)	①アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り		
	成果	成果	・ナビゲーター有志によるウェブサイトを立ち上げ、スケジュールや管理ができるようになった。 ・「おしゃべりアートデイズ」のシフト決定や当日の運営をナビゲーターが行うことにした。 ・新年度の「おしゃべりアートデイズ」の日程を、ナビゲーターと一緒に決めた。		
	ねらい2 (転記)				
	成果				
	ねらい3 (転記)	-			
成果	-				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒特徴的な活動であるとして、視察を2件受けた。(2019,3,12) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒該当なし 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒アーツナビゲーターの中から、他の美術館やアートスペースなどでも対話型鑑賞の活動する人が出てきた。(2019,3,12) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒該当なし 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし			
	自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	☒ 2.良い	3.普通
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか		1.非常に良い	2.良い	☐ 3.普通	4.劣る
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか		1.非常に良い	2.良い	☐ 3.普通	4.劣る
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか		1.非常に良い	☒ 2.良い	3.普通	4.劣る
課題・改善点		【アーツナビゲーターについて】 ・現在10名が継続している。初回から参加している人は5年目となるが、ファシリテーションをする機会が少なく、継続する動機を維持するのが難しい。 ・鑑賞者の対象を子どもから大人へ変更したために、作品や作家の最小限の情報提供型になったことで研修内容が高度になり、ナビゲーターを継続しない人も出てきた。 【おしゃべりアートデイズ】 ・毎回、鑑賞者が集まりにくい。⇒新年度は年間スケジュールの印刷物を作成し、配布。 ・対話による作品鑑賞は将来性のあるプログラムであるが、ナビゲーターと鑑賞者が集まらず、積極的な活動ができていないのが課題である。			
	引継ぎ事項 (特記事項)	・広報戦略 新年度はナビゲーター募集チラシと合わせて、年間の「おしゃべりアートデイズ」の実施日を掲載した印刷物を作成し、活動日や内容をわかりやすく伝える。 ・新たな試み ナビゲーター研修での個別指導を3年以内の継続者を対象に行い、コーチング以外の研修も充実させる。 (転記)			
コメント・意見	館長 副館長	常設展示室がない現状に合わせた人材育成として成果をあげていると思う。引き続き、研修方法、参加者、スケジュールなどに検討を加えていきたい。			
	運営 評議会				

最終更新日: H31.3.16

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項

事業名	表現の森継続事業						
事業1	時期・日数	石坂玄士・山賀ざくろ×特別養護老人ホームえいめい 全4回(6/18, 8/6, 10/26, 12/7)		会場	特別養護老人ホームえいめい	人数	280人
事業2	時期・日数	滝沢達史×アリスの広場 全10回(4/28, 5/16, 6/20, 7/20, 9/3, 9/26, 9/27, 11/14, 12/19, 2/20)		会場	アリスの広場、アーツ前橋	人数	102人
事業3	時期・日数	中島佑太×南橋団地 全4回(7/28, 8/18, 12/16, 2/11)		会場	南橋公民館など	人数	193人
事業4	時期・日数	廣瀬智央・後藤朋美×のぞみの家 全4回(6/9, 6/25～10/29, 1/12, 3/9)		会場	のぞみの家、アーツ前橋など	人数	156人
担当者	今井学芸員、山田学芸員、佐藤副主幹						
目的・目標 (総括表)	・アート／美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉／教育現場との連携関係を築く。						
キーワード	美術館のアウトリーチ、人材育成、福祉や医療や教育の現場、施設や地域との連携						
他団体との連携 (共催、協力等)	NPO法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場、社会福祉法人清水の会特別養護老人ホームえいめい、社会福祉法人上毛愛隣社のぞみの家、桃川小学校、南橋町育成会、NPO法人まえばしプロジェクト、群馬大学、群馬県立女子大学、文化庁						
参加作家	石坂玄士、山賀ざくろ、滝沢達史、中島佑太、廣瀬智央、後藤朋美						
関連イベント・人数	・アーティスト・イン・スクール(中島佑太、桃川小学校):アーツ前橋主催事業 ・滝沢達史×アリスの広場 ゆったりアウトドアプログラム:アリスの広場主催事業 ・映画『記憶との対話』上映会＋ディスカッション:群馬県立女子大学主催事業 ・映画『地蔵とりびどー』上映会＋トーク:やまなみ工房主催事業						
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等						
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)／(B)	一人当たり コスト	収入内訳	
						参加費	助成金 他
	予算	-	1,739,000 円	-	2,080 円	-	-
	決算見込	-	970,000 円	-	1,160 円	-	-
	差額	-	-769,000 円	-	-920 円	-	-
	予算／決算	-	55.8%	-	-	-	-
②内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士／山賀ざくろ (4)のぞみの家×廣瀬智央／後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。				
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	H29年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。				
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・第47回日本医療福祉設備学会での事業紹介 ・dear Me Festival! (AIT主催)での事業紹介 ・東京都現代美術館文化共生課事業推進に向けたヒアリングでの事業紹介 ・文化庁広報誌ぶんかるに事業記事を掲載 ・九州大学ソーシャルラボ「はじめての社会包摂×文化芸術ハンドブック」での事業紹介				
		新たな試みの実績	・群馬大学や県立女子大と連携し、上映会を通じて障害について考える勉強会を開催することで、地域の人たちと本プロジェクトの課題を共有することができた ・連携する施設がアーツ前橋の事業の意義への理解を深めることにより、共同出資でのイベント開催をすることができたまた、地元企業との連携も実現した ・アリスの広場の若者たちに特設サイト用の原稿を依頼し、原稿料を支払う形で、彼らの社会復帰への意識を高めることができた				

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	表現の森継続事業				
③ 結果	数値目標	指標1	目標	ワークショップ実施回数 36回	実績	ワークショップ実施回数 21回
		指標2	目標	参加者数 400人	実績	836 人
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ ②遅延気味であった(内容:)				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層の ターゲット (転記)	ターゲット:美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人			
		成果	現在進行している4つのプロジェクトの対象者の中には、物理的に美術館へアクセスすることの難しい人も多く、プロジェクトを継続的に行うことにより、対象者の中には、アーツ前橋が彼らのサードスペース的な役割を果たしている人たちもいる。			
		ねらい1 (転記)	①アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を克つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する			
		成果	3年間の活動の蓄積として、協働する他団体との信頼関係が構築されてきたことにより、地元の育成会や学校との連携を通じて、より多くの人たちへ参加を促すことができた。また、県内での福祉や医療関係者との横の繋がりができることにより、より多くの人に情報を届けることができた。			
		ねらい2 (転記)	②アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。			
		成果	南橋団地でのプロジェクトが発展し、団地の子どもたちが通う桃川小学校の生徒たちが学校の授業の中でアーツ前橋を訪れた。			
⑤ 波及効果	個別評価	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒日本福祉医療設備学会などの美術以外の団体にも関心を持ってもらうことができた(20190316) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒アリスの広場が来年度5月を持ってスペースの維持が難しくなったが、アーティストの滝沢達史とともに今後の活動拠点についての勉強会を始めている。アーティスト/施設ともに互いの必要性を感じての活動になっている。(20190316) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒県外からも事業のヒアリング依頼などが来るようになり、地域の美術館の新しい事業として認知され始めている印象を持つ。(20190316) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒該当なし 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒				
		※記入日を()内に 入れてください ※概ね1年経過毎 に再確認して修正				
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	☒ 3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	☒ 2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	☒ 2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	☒ 1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	群馬大学のNPOとの連携事業として行っているが、コーディネーターなどの人材育成があまり進んでいない。プロジェクトの内容を共有しながら、ともに事業を進められるようなNPOとの連携強化が大きな課題となっている。また、地域の美術館の社会課題へのアプローチに関して、より深く考え議論できる場を作っていきたい。				
引継ぎ事項 (特記事項)		特設サイトを通じてアーティストや参加者の声を記録として蓄積してきたが、より専門的な外部の方たちによる声をもう少し積極的に取り入れていきたい。				
コメント・意見		館長	当館の特徴ともいえる事業になっについて、丁寧に記録作成をおこなう体制が整っている。いっぽうで、それを振り返り内容面の検証を行うことに時間を割く余裕を持たせた			
		副館長 運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16